

2021.3.11 (木)  
第25回例会  
(通算 3619 回)

## 2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「Together! 次世代へ共に築こうロータリー！」

第84代会長 舟木 博  
副会長 土橋 賢一  
幹事 荒井 剛  
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00  
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル  
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F  
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2020-2021 年度  
国際ロータリーテーマ



ロータリーは世界の扉を開く  
2020-2021 年度  
RI 会長 ホルガー・クナーク  
第 2500 地区ガバナー  
松田 英郎 (富良野 RC)

月間テーマ	平和と紛争予防／紛争解決月間
本日のプログラム	「国際ロータリーの現状について」～キーワードは DEI と SRF ～ (担当：国際奉仕委員会)
次週例会	会員卓話「今年の展望と輝ける釧路きっかけ作り」(担当：プログラム委員会)

- ロータリーソング：「四つのテスト」 ■ソングリーダー：邵 龍珍君
- 会員数 97 名
- ビジター なし
- ゲスト なし

### 会長の時間

#### 土橋 賢一副会長



皆さん、こんにちは。先週の例会終了後、今月の理事会があり、今後の例会のあり方について話し合いました。内容については皆さんにメールでもお知らせ

いたしてるところですが、いま一度、皆さんにご説明をさせていただきたいと思えます。

先週の木曜日の段階では、北海道の自粛期間が多分解除されるだろうと予測されましたので、正直どうしたものかと気持ち的に焦りもありました。しかし、おりしも釧路では、白樺台病院でクラスターが発生しておりましたので、気を緩めるのは時期尚早ではないかという結論に至りました。また、その後も別の病院でもクラスターが発生しておりますので、いよいよ本当に身近に感染があるのだろうと思えます。

このようなことから、まずは4月の第一例会、この日は理事会がありますけれども、とりあえずはそれまで皆さんにご不便ご迷惑をおかけしておりますが、いま現在やっている形での例会をやらせていただきたいと存じます。

また、本日、舟木会長よりメッセージをお預かりしておりますので代読させていただきます。

#### 会長メッセージ 代読

皆さん、ご無沙汰しております。現在、普通に生活ができることのありがたさをしみじみと実感している今日この頃です。

この度は、私の健康上の理由で一定期間、会長の職務に支障をきたしたことを皆さまにお詫び申し上げます。おかげさまで現在、手術後順調に回復しておりますのでご報告いたします。

なおしばらくの間は抗がん剤治療もあり、ロータリー活動に直接的に参加できず誠に残念でございますが、何卒よろしくお祈り申し上げます。

以後1日も早く元気な姿を皆さまの前に現せることを楽しみにしております。

最後になりましたが、皆さまのご健勝を心からお祈りいたします。

釧路ロータリークラブ会長 舟木 博

#### 幹事報告 荒井 剛幹事

2点ございます。先週の理事会でもご意見をいただきましたが、舟木会長が空席なところが少し寂しいということでパネルを準備させていただきました。後ほど前に来てご確認いただければと思います。

2点目です。先週ガバナー事務所から「コロナ対策」ということでクラブの人数分、私が手にしている物ですが、手と指に付ける消毒液を送っていただきました。

後ほど、会場を出た所、お弁当置き場の所に並べてありますので1個ずつお持ち帰りいただければと思います。

### 五明 正吉会員について 白幡 博君

例会前でございますが、貴重なお時間をいただき五明正吉君の件につきまして少々お話をさせていただきますと思います。

皆さん、ご存じのように2月27日夕方5時1分に息を引き取りました。本当に急な、私にとっても残念な結果となりました。本人は、本当に頑張っていましたけれども、帰ることができませんでした。先週、土橋副会長さんからも皆さんにお話があったと聞いております。

葬儀につきましては、家族葬をもって済ませたところでございます。その際に、釧路ロータリークラブの皆さんからもお気遣いをいただきましたこと、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

なお、皆さんからもいろいろお話をいただいておりますので、いま釧路商工会議所さんにご相談をし、五明正吉君のお別れ会開催の準備をしているところでございます。

本日確認をしました。3月26日午前11時より、プリンスホテルさんをお借りして正吉君のお別れの会の準備をしているところでございます。またご家族からは、「できれば、ロータリークラブのメンバーの方にもお手伝いをいただければ」と、お申し出もございましたので、先ほど土橋副会長にお願いをしたところでございます。

本当に残念な結果になりましたけれども、もうひとつだけお話をさせていただきます。

私は、メールで正ちゃんに「ようやっと釧路ロータリークラブの例会も再開するよ。行こうぜ」というメールを打ちました。その時、彼は「みんなに会いたい。例会に出たい」そのようなメールが帰ってきました。本当に頑張っていたと思います。皆さんに会いたかったという思いがあると思います。どうぞ26日、お時間のある方はぜひともお別れの会にご出席をお願いできればと思います。

貴重なお時間をありがとうございました。

### ■本日のプログラム■

「国際ロータリーの現状について」～キーワードは DEI と SRF ～

### 国際奉仕委員会 小船井修一委員長

ただいまご紹介をいただきました小船井です。国際奉仕委員会として今日は報告をさせていただきますが、「奉仕」に関わる部分のお話はしないで、先日2月



27日に『地区チーム研修』と、28日が次年度の会長と幹事を対象とした『P E T S』を開催させていただいた中で、私から国際ロータリーがどのような考え方をしているかについて、チーム研修では20分ほど、P E T Sでは10分ほどお話をさせていただきました。今日は30分ぐらい時間をいただければと思っていたのですが、私も早く帰りたいので短くお話をさせていただきます。また、私も70歳を超えて立っていると、立ちくらみをしそうな雰囲気になっていきますので、座らせていただきます。申し訳ございません。

キーワードはD E I と S R F。皆さんご存じだと思いますが、森元首相が今回パージ、変な言い方ですけど辞めました。原因は女性を蔑視したと。そのようなことで橋本さんが組織委員長になりましたが、彼女は最初になにをやったのかということ、女性の理事を40%にしました。そのようなことを含めて、いま世の中がどのように動いているのか。ある意味では、男社会から男女平等社会にすることが当然の正義だという状況になっていること。それを前提にお話をさせていただきます。国際ロータリーも同じという意味です。

目次『D E I』、これは現況を知る・理解をするためのキーワードとして「多様性・ダイバーシティ (diversity)」、それから「公平さ・エクイティ (equity)」、それから「開放性・インクルーシブ (inclusive)」、英語です。大変申し訳ありませんが後ほど詳しくお話をさせていただきます。

このD E I を前提として、国際ロータリーはこれから9年後『S R F 試験プロジェクト』ということで、いままでは「2500地区」という名称がありましたがこの地区を消滅させて、セクションに細分化することを計画し、ガバナーという基本的な制度はやめる。そしてピラミッド組織からフラットな組織に変える計画をしていることを話します。

最初に『D E I』とは、ダイバーシティ (diversity)・エクイティ (equity)・インクルージョン (inclusion)。ダイバーシティ。『S D G s (エスディーズ・Sustainable Development Goals)』などでいま「多様性を容認しましょう。多様性を尊重していきましょう」

という言葉、このダイバーシティは一般的な話になってきています。

それから公平さ・エクイティ。これはイクオリティ (equality) ・平等ということではなく、公平という意味で平等とは違うということ、後ほどご説明をさせていただきます。

それからインクルージョン、これをR Iは、「開放性」とこのように翻訳していますが、反対語ではイクスクルーシブ (exclusive) という言葉があります。排他的という意味です。ロータリーはイクスクルーシブとは違うインクルーシブ (inclusive) な組織にしていこうとしています。



「P E T S」では来年の会長・インド人のシェカール・メータさんが「ロータリーの中核的価値観のひとつは多様性です。ロータリーの『DEI (多様性・公平さ・開放性)』に対する信念を表した公式声明もあります」。以下、省略しますが、彼がいま強調していることが、女子のエンパワメント (empowerment)、いわゆる女子とは英語ではガール (girls) ですから多分未成年の成人ではない女性のことを言っていますが、エンパワメントをする女子の子どもたちをなんとか救っていこうと彼は強調しています。基本的に『DEI』の多様性という概念を前提にして彼は言っていることをまず理解いただければと思います。

それで『DEI』、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンはロータリーの声明、今から2年前の2019年1月の国際ロータリー理事会がこのような決定をしました。「DEIの原則を尊重して実践をするために基準を定める組織を創設する」という取り組みが現れ、ジェンダー・エクイティ (gender equity)、要は、女性と男性のエクイティ・公平さを強調しました。それは昨年2020年の9月、DEIタスクフォースを設置して地域的な違い、ニーズ優先事項を含むビジョンを盛り込んだ計画を策定する任務を与えました。

これは後ほど『SRF』という形で具現化していきます。その中でダイバーシティ、インクルージョンとはどのような意味なのかお話し申し上げます。

ダイバーシティ・多様性は、いろいろな人たちがいるということ。下に書いてありますが、性別・国籍・性的指向、これはホモセクシャルでも何でも良いのですけれど、そのような性的指向も関係なく、障害の有無に関わらず、多様な人が差別なく活動することをダイバーシティといいます。

インクルージョンというのは、それぞれの持ち味を活

かして働き、意思決定に関わることで組織に新たな価値をもたらすこと。それぞれの持ち味、要は簡単に言ったらイクスクルージョン、これをイクスクルーシブという言い方をしましたが、この灰色の集まり釧路ロータリークラブと違ってください。今日の会合でも男ばかり、女性は1人しかいません。そのような意味では灰色の組織、排他的な組織としてイクスクルーシブな組織からインテクルージョン、これは改善をしながら、例えば女性、あるいは白人、あるいは黒人、あるいは身体障害者の方たち、あるいは金のない、変な言い方ですけど豊かではない、あるいは偉くはない、会社の平社員の方たち、若い人たち、20代・30代の人たち、そういう様々な多様性を持ったクラブの構成に変えていきましょう、この様々な人たちが混ざり合った組織にしましょう。これがインクルージョンの考え方です。要は、ロータリークラブをこのような感じにしましょうということをしてR Iの理事会が決定しました。

もう1つ、これは一般的な話でエクイティ (equity)。均等・平等に機会を与えることから、公正になるまで機会を与える。結果平等という言い方になりますが。右側は両方とも同じなのですが、左側は野球観戦の中で身長のある子どもたちが観戦する時に、平等に踏み台を付けても小さな子どもは見えないから見えるようにしましょう。そのようなことがジャスティス (justice)、公正であると。右側、イクオアリティ (equality) は、これはリンゴを取るのに身重差があっても平等に踏み台を与えないで、取れるまで、結果的に平等になるまでやりましょうという簡単に言ったらエクイティ (equity) の概念です。

このようなインクルージョンなど英語の言葉で、皆さんあまり悩まされることなく良いのですけれど、この下の矢印を読みます。

ローターアクトクラブのR I加盟を機に、これは2019年の規定審議会でローターアクトクラブは加盟しましたが、若年性の参加と女性に門戸を開くロータリーに転換したと私は思います。そして会員資格、会費や例会の柔軟性の導入による門戸の拡大・インクルージョンにした。伝統的クラブ運営の抜本的改革をしようとしている。ちなみにこのエクイティ・公正に関わる理事会決定は、実施されている部分です。ローターアクトクラブの人頭分担金は2023年または2024年に始まるのですが、ローターアクトクラブの人頭分担金を8ドル、われわれは今70ドル払っています。約1/10の人頭分担金。ライラ基盤のローターアクトクラブは5ドル。その下に、ローターアクターはロータリアンの権利に近づける。これも会費は安いのに権利だけは一緒、先ほど申し上げた公正にしていこうという措置をいまローターアクトクラブにしようとしています。

それから、女性会員をこれから2年後2023年6月



までに世界で30%以上にする。現状は24%、日本は4%ないし5%です。これはジェンダー・エクイティという施策です。

次に、全リーダー職も2023年6月までに30%以上にする。リーダーとは、R I 会長・R I 理事・地区ガバナー・ガバナー補佐・クラブ会長、そのようなリーダー職の皆さまの3割は女性にしましょう、と。そのようなジェンダー・エクイティの施策を決定しています。

それから、R I とゾーンの開放。講演者・話す人の60%以上を同一のジェンダー、ということは男6割。逆に言うと女性のスピーカーを4割にしろということ。そのようにジェンダー・エクイティを2020年9月に理事会で決定しました。

ゾーンの開放とは、「ロータリー研究会」や「地区大会」も含めて検討しなければいけないことです。そのような意味で「次年度の会長は、例会でも女性の講師を視野において、数を多くした方がよろしいのではないのでしょうか」とお話し上げました。

最後、「次回の推薦周期から全ての地域リーダー職に必要なパストガバナーの資格条件を削除」。ということは、ピラミッド組織、今までの積み重ねで、例えば平社員から課長、課長から部長、部長から取締役、そして社長というヒエラルキー構造そのものを否定しているのです。ガバナーをやった人を「パストガバナー」とたてまつっていますけれど、私もその1人です。ありますが、「パストガバナー」という称号は、今はありますけれどももう与えない。そのパストガバナーから地域リーダーは選ばれていましたが、今後はパストガバナー以外の方たちも入って来ることが決定されています。

それから、来年2022年の「規定審議会」で理事会が提出するだろう制定案に関して説明をさせていただきました。簡単にいいます。「ガバナーノミニの資格条件の緩和」、ロータリー以外でのリーダーシップ経験を持っていればガバナーになることができる。そのような意味では、ライオンズは青年会議所の経験年数をプラスして履歴にしています。ライオンズに入会したら「あなたは青年会議所に何年いたの」「15年いました」。そのように15年いたら「ライオンズマン」としては、15年の経歴を持っている」と積算されることになっていくでしょう。

それから、「理事」「理事指名委員会委員の資格条件の緩和」、これも緩和ですね。それから「R I 委員会の資格要件の緩和」。アクターが参加可能になる。ローターアクターの規定審議会代表議員として参加。これも全部、これから来年の理事会が提出する制定案なので決定ではありません。決定ではありませんが、これを上程して来るであろう。そのような意味では、アクターもシカゴの「規定審議会」は1週間あります

が、その中で34名がただで参加するという形になるであろう。

そして、「S R F 試験プログラムの提出」ということになりますが、「S R F (Shaping Rotary Future)」、ロータリーの未来を形成することを「S R F」と単語化しています。

それでは、「S R F 試験プロジェクト」とはどのようなことなのでしょう。いまから9年後の2030年施行を目的とした試験プロジェクトであり、地区制度の改革。先ほど申し上げた地区制度をなくして『リージョン (Region)』という形で。リージョンの意味を後ほど申し上げますが、日本は1リージョンとなる可能性があります。ヒエラルキー組織からフラットな組織にしていきましょう、これが「S R F」の最大の目標です。

では、ロータリーをインクルーシブ (inclusive) な開放された組織にするためにはどうすれば良いのかということです。その持っている属性によって排除されることなく、誰もが構成員の一員として分け隔てることなく、当たり前存在し活動することができる組織、インクルーシブな組織。これは、ウィキペディア

(Wikipedia) に書いてありましたが、ヒエラルキー組織、ピラミッド組織からホラクラシー組織へ、この言い方は私どもで見つけたのですが、『分散フラット



組織』これは『Airbnb (エアビーアンドビー)』だったかな、いまアメリカで大きく流行っていて成長をしている会社が分散フラット組織での典型例として言われています。そのような意味で、ヒエラルキー組織へ転換をしようと、それが「S R F 試験プログラム」の大きな目標だろうと私は思っています。

では、この「S R F」は、どのようにして決められていったのかということ、昨年2020年の9月の理事会で「これを、2030年実施を視野に組織改革すること」を承認しました。今年10月の決議審議会、来年4月の規定審議会での「S R F プロジェクトをやるかやらないか」について審議されます。この制定案は様々な部分がありますけれど、この「試験的プロジェクト制度」は、いまから20年前の2001年の規定審議会での「ロータリークラブの定款に反する例外的なことができる試験的プロジェクト」が採択されたのです。今度は、「地区のルールに関わらない試験プロジェクトをすることができる」ということで上程します。

この「試験的プロジェクト」とはどのようなことなのか。これはまだまだ変更される可能性がありますので、決定という話ではないのですが、世界で20~30の

地域（リージョン）を設置し、文化・言語・ニーズ・フォーカス・地理・効率性を基準にグループの分類を実施し、『リージョナル・カウンシル（Regional Council）』は任期3年で、リージョンの中のクラブ選挙で選出されます。そのリージョンの中に『セクションリーダー』、日本でいくと100～120ぐらいと思うのですが、任期2年です。これも選挙ですが、セクションというグループをつくります。このセクションは、25～30のクラブで、アクトクラブも入ります。そしてアクトを入れて1500人～1600人で構成されるセクションの中のセクションリーダー、これを「ガバナー？」とクエッションマークを出していますが、ガバナーという名前は残るかもしれません。最後に、日本は1つのリージョンで、100～120前後のセクションに細分化され、2500地区は2.5ぐらいになると思います。

その中で、「試験的プロジェクト」の概要として、辰野理事が説明をした『なぜ未来形成に取り組むのか』で、彼が言っていることは、「地区ガバナーの機能が十分に果たされていない。仕事をやっていない。地区ガバナーは、名誉職でなにも動いていない」というような話です。「指名による人事は能力・意欲のある人が上に立つことができない。選挙をやった方が良い」と言っています。「選挙で優秀な方たちを選ぶべきだ。そしてローターアクター、先ほど申し上げたエクイティ、平等・公正な形で会費は安く、なおかつ権利は一緒、ローターアクターもガバナー選挙に加わるべきだ。そしてセクションリーダーになることもできる」と書いてあります。ということが概要としてありました。

この「試験的プロジェクト」はどのようになるかとなると、先ほど申し上げた来年の規定審議会で採択された場合、これは国際ロータリー定款変更ですので2/3以上の賛成を得ることが前提となります。そして6年間の試験プロジェクト実施を経てチューニングされる。多分全体の2割、100ぐらいの地区が参加すると思います。2028年の規定審議会でこの「SRF」をもう一度全世界に採用することを審議して採択された場合に、2030年7月から施行されます。9年後です。

先ほど吉田さんとも「われわれは、もういないよな」という話をしていて、いま40代・50代の方たちは、必ずこのような形の変更を体験するかもしれません。

最後に、これは何回も申し上げていますが「DEI」は、いま国際ロータリーもアメリカの民主党と同じで大きく舵を切りました。ジェンダー・エクイティ、「SDGs」や、様々な部分でのいまの世の中の変更に関わって、迎合とは言いません、変更に関わって自分たちも大きく変わっていかうと決定していることを理解いただければと思います。

そして「SRF」は9年後には、大きな変化としてわれわれの身にかかってくることもかもしれない。そうにご記憶いただければと思います。

そうしたら、釧路ロータリークラブは、10年後に向けて釧路ロータリークラブはどうすれば良いのだろうか。これは皆さまに考えていただければと思いますし、私が「こうせい、ああせい」と言う立場ではございません。

ひとつは世の中の変化、森さんが可哀想でしたけれども、私も「女とは姦しい奴だ」とか、女を3つ書くと「姦しい」とか「嫉妬」は女偏です。そのような言葉もこれからは言えなくなりますよ。「これは女性蔑視だ」という言い方をされるかもしれません。そのような世の中について理解するべきでしょう。そのようなことが私からのご提案でもあります。

そしてもう1つは、釧路ロータリークラブはインクルーシブな開放的なクラブになるべきなのだろうかということも議論をしていただきたいのです。

私はまだイクスクルーシブなクラブとして釧路ロータリークラブは存続する可能性がたくさんあると思っています。なぜならば釧路を代表する人たちがたくさん入っています。なおかつ様々な部分で、この釧路地域を敢えて経営とは言いませんが地域に大きく影響を与える人たちが入るクラブであると考えれば、私は存在意義があるでしょう。同時にクラブとは、反面、アソシエイト（associate）という言い方がありますが、基本的に仲間たちが集まりながら、そして仲間たちが自分たちのクラブを育てていくというアソシエーション（association）として、クラブの価値がありますので私自身は、釧路ロータリークラブは伝統的運営クラブとして存続する可能性は高いのではないだろうかと感じています。

私がもう1つ申し上げるとするならば、「DEI」に準拠した新しいクラブ設立支援の積極化が大事なことだと思います。例えば、ローターアクトクラブをロータリーにしていくうえで釧路北クラブが様々な青年・若い人たちに働きかけをしています。私どもはそれを支援する、あるいは、釧路ロータリークラブが新しい衛星クラブや新しいクラブをつくるのをどのようにサポートできる存在になれるか。これが私どもの役割のひとつではないだろうかとは感じています。

まずもって来年の会長が、多分女性会員を入会させようと思えます。このような「DEI」が世の中の凄い潮流です。女性蔑視、もうマスコミはこのことばかり言っています。アイスランドは女性閣僚を40%にしなければいけない。日本はどうなっているのだ、とそのような話になっています。私が申し上げていることは、流行のはんてんかもしれません。流行かもしれない。しかし世の中の流れが、この流行というものが続くであろうという前提で物事を考えてい

かないと、子どもは置いて行かれると私は感じていま  
す。

十分ご理解をいただきながら、皆さまの未来を創って  
行くうえで釧路ロータリークラブのカギを握っている  
皆さまが活躍できる場になることをご期待と申し上げ  
まして「D E I」と「S R F」、変な話を申し上げました。  
私の話は、以上でございます。ご静聴ありがとうございます。

### 本日のニコニコ献金

- 邵 龍珍君 過日、釧路新聞に末広の店舗が掲載されました。ありがとうございます。
- 樋口 貴広君 釧路新聞に載りました・
- 佐藤 貴之君 新聞に掲載して頂きました。コロナ禍でも頑張ります。

今年度累計 404,000 円